

柳川は、我が詩歌の母體
詩聖、北原白秋が生まれ育ったまちです。

白秋が 愛した柳川

北原白秋(本名:隆吉)は、時代を超え人びとの心に残る作品を数多く残した詩人であり、童謡作家であり、歌人です。

明治18年(1885)、酒造業を営む北原家に生まれた白秋は、「トンカジョン(大きな坊ちゃん)」と呼ばれ、6人の平家落人が港を開いたという「六騎伝説」が語り継がれる沖端で華やかな少年時代を過ごしました。有明海を通じて行き交うものと人。生命力と天性の明るさに富んだ作風は、このまちそのものでした。

しかし白秋が16歳の時、大火で酒蔵が全焼し、家は傾きます。傷心の白秋は没頭していた詩歌の創作へとさらにのめりこみ、やがて家出同然で上京。与謝野鉄幹、石川啄木といった才能とも交流しながら、



26歳の時に書き上げた処女詩集『邪宗門』の耽美的な表現で賞賛をあびます。その2年後に出した詩集『思ひ出』は、故郷柳川と破産した妻家に捧げる懐旧の情で、白秋の名を世に知らしめました。57年の生涯で2万点以上の作品を残した白秋。山田耕筈との『からたちの花』などは日本の心ともいうべき童謡の傑作です。

白秋がずっと抱いていた、帰りたくても帰れない故郷柳川への思い。されど、昭和3年、20年ぶりの帰郷を柳川の人びとは熱狂的に迎えたのです。

この生家は、焼け残った母屋を保存活動によって復元したもので、記念館と合わせ、その激動の人生と人間像に迫る展示は心を揺るぶります。絶筆となった『水の構図』に、柳河は我が詩歌の母體」と遺した白秋。柳川を愛してやまなかった、その思いにふれる沖端界隈の散歩道です。

● 北原白秋生家・記念館
柳川市沖端町55番地1

☎ 0944-7276773

開館時間／午前9時～午後5時(入館午後4時30分まで) 休館日／12月29日～1月3日 観覧料／大人600円、高校生・大学生450円、小・中学生250円

